

安全

【駐在所】

○県道沿いの馬場尻踏切そばにあったものが、昭和３９年に県道拡張に伴い余田出張所横に移転した。さらに昭和５８年市道北部柳井・田布施線沿いに移転し、出張所横の建物は解体された。平成２６年余田駐在所は廃止され、柳井駅前交番の管轄となった。

【消防団】



【余田村畑区手押しポンプ】

○かつては平田に火の見やぐらがあり、半鐘が鳴らされていたという。

○（昭和６０年刊「柳井消防史」より）余田村では、龍吐水（木製の手押しポンプ）一台を備えて、一部の篤志家によって運営されていたが、村内に数度の火災があって、村の青年の消防意識が高まり、村内の各青年会がその事業として消防団を結成するとともに機械器具を新規に購入して、消防活動を始めた。

村内の地区で手押しポンプを購入した

場合には１台に限り村が購入費の３分の１を補助し、畑組、保生地組、今出・中郷・院内・小平尾組、堀・小原・坂本組、蓮台寺・西山・尾林組、中村・平田・河添組の６組に１台ずつ支給された。大正７年に村会の議決によって、この私設の青年消防組を一緒にし、公設消防組とするために山口県知事に申請していたところ、その年の１２月に認可されて３部制の余田消防組を設置した。

当時の人員は組頭１名、小頭９名、消防手９０名であった。

その後大正１３年に３部制は廃止され、組織変更によって人員も削減合理化し、小頭９名を３名に、消防手９０名を４７名にした。この状態が昭和１４年に警防団が結成されて消防組が解散するまで続いたものと思われる。

余田警防団は他町村と同様に昭和１４年４月に結成され、灯火管制など戦時的業務に従事したものと思われる。

戦後昭和２２年に「余田消防団」が結成され、合併した昭和２９年には「柳井市余田消防団」と改称され、さらに３０年には消防団を「分団」に、分団を「部」に呼称替えが行われて「柳井市消防団余田分団」と呼称された。

○なお、昭和３１年刊の「余田地区新生計画書」には、「大正８年公設消防組が出来、昭和１４年警防団に改まり昭和２３年消防団と改名された。

火災はもとより災害や地区民の生命財産に危険が生じた場合、応急の処置をとり警察に

協力するなど重要な任務をもっている。

団長1名 副団長1名 団員75名

ガソリンポンプ5台 手押3台」

とある。

○歴代代表者は次のとおり（一部の人については元消防関係者等の記憶によったものもあり、また就任年月不明の人もある、とのこと。）

- ・初代 長尾 唯一 就任年月不明
- ・2代 藤本 静夫 //
- ・3代 中本 武夫 //
- ・4代 青木 四郎 //
- ・5代 北山 義雄 //
- ・6代 穀田 隼雄 //
- ・7代 山田 松一 //
- ・8代 森重 登 昭和26年 就任
- ・9代 辰己屋 正美 昭和30年12月 就任
- ・10代 溝尻 守雄 昭和41年10月 就任
- ・11代 小林 誠 昭和50年7月 就任
- ・12代 佐藤 里美 昭和52年9月 就任
- ・13代 穀田 芳照 昭和63年 就任
- ・14代 西本 陽一 平成6年9月 就任
- ・15代 河村 正之 平成8年9月 就任
- ・16代 嬉 哲朗 平成19年9月 就任
- ・17代 吉永 勝男 平成23年9月 就任
- ・18代 大西 勝己 令和元年9月 就任



【昭和42年の消防団余田分団】